

「長泥友の会」が設立総会を開催

『長泥友の会』が、8月24日、長泥コミュニティセンターで会の設立総会を開きました。地区の再生を目指し共同作業に力を合わせてきた皆さん。「これからは交流やスポーツ、行楽などを通して“生きがい”を得ていこう」と、嶋原良友さんの呼びかけで36人が入会しました。早速パークゴルフの練習会などが行われる予定で、会長に就任した嶋原さんは「会員を引き続き募集し、今後の活動内容は、皆と相談しながら決めていきたい」と話していました。会は年度末の行政区総会で承認を得て、正式な発足となる予定です。



キバナコスモスの花畑が満開に

8月下旬、「いいたて村の道の駅までい館」前の花畑が、オレンジ色に染まりました。満開を迎えたキバナコスモスです。道の駅の正面には、紅白の日々草も並んで咲いて、一面に鮮やかな景色が広がりました。

この花畑は、飯館村振興公社の皆さんが、栽培と管理を担っています。猛暑に負けず、美しい花畑をつくり上げました。

厳しい残暑も吹き飛ばすような花景色は、県道に行くドライバーの目も楽しませています。



雪っ娘ファンクラブが村内の畑でボランティア

上品な甘さとほっくりした食感が特長の「いいたて雪っ娘」は、菅野元一さん(宮内)が育種したカボチャのオリジナル品種です。震災を越えてその種をつないできた渡邊とみ子さん(前田・八和木)の畑で、8月中旬、「雪っ娘ファンクラブ」の皆さんが、2日間にわたり“へそ取り”や保護材の設置を手伝いました。ファンクラブの皆さんとは10年ごしのお付き合い。今回は9月に2泊3日で来村し、収穫作業を手伝うそうです。



震災を機にとみさんの取り組みを知り、関東圏から毎年訪れるファンクラブの皆さん。「レンチンだけで料理になる」と雪っ娘の特別なおいしさに惚れ込んでいます。



農家民宿「古今呂の宿 福とみ」を営むとみ子さん。雪っ娘の新芽や花、未熟な小さな実さえも、天ぷらやマリネで、余す所なく、おいしく提供しています。



いいたて雪っ娘

2025スーパーカーフェスティバル

8月24日、いいたて村の道の駅までい館にて、「Village Future Group」(長谷川芳博代表/福島市)主催のイベント『2025スーパーカーフェスティバル』が開催されました。今回で5回目の開催です。会場いっぱいに約60台のスーパーカーやクラシックカーが展示され、県内外から約5,000人が来場しました。会場では山木屋太鼓(川俣町)の演奏が行われた他、動物と触れ合うコーナーやキッチンカーも人気を集めました。イベント終盤では、スーパーカーが走り去る様子を一目見ようと、会場前の道路に多くのファンが並び、手を振りながらスーパーカーを見送りました。



にぎやかに『飯樋豊年盆踊り』

8月14日、飯樋町集会所で『飯樋豊年盆踊り大会』が開催され、約180人が集いました。飯樋4行政区合同の「豊年盆踊り実行委員会(渡邊富士男実行委員長/飯樋町)」の主催。盆踊りに先立ち、バンド演奏やカラオケ大会も行われました。お囃子が鳴り始めると、地元の皆さんが自然に踊り出し、続いて来場者も踊りの輪に加わりました。子どもからお年寄りまでお囃子に合わせて「よいしょ!」と掛け声。最後までにぎやかに踊りの輪が広がりました。



草野行政区が夏の交流

8月10日、草野行政区の集会所で、地域住民の交流会が行われました。あいにくの雨模様で「第4回草野行政区夏まつり」が中止となったため、屋内に会場を移して交流会を行いました。帰省をしている住民の参加もあり、焼きそばや焼き鳥のふるまい、お菓子釣りなどを楽しみながら久しぶりの再会を喜ぶ様子が見られました。後半には太鼓や笛で盆踊りのお囃子が披露され、懐かしく温かい音色とリズムに、参加者が顔をほころばせました。

